

第1回 津波災害の軽減方策に関する研究委員会議事録

日時：平成19年9月13日（木） 13:35～16:40

場所：建築会館3階303号室

出席者 松富、藤間、運上、奥田、有川（敬称略）

議題1. 報告事項

(1) ソロモン諸島地震津波調査

- ・メール等で相談。
- ・学会の本部から調査に行くのであれば、調査費を出すという打診。
- ・平成19年度活動計画の中からの打診。
- ・藤間先生、松富先生、鳴原先生が行った。
- ・委員会の20万円は使ったので、今年度の調査費は原則無い。
- ・論文集への投稿をお願いされている（本部から）→ 検討中

(2) 日本地震工学会誌津波特集について

- ・皆様に感謝申し上げたい。
- ・奥田委員への負担を考え、お声をかけなかったのは、謝罪したい。

(3) その他

- ・運上委員の新潟県中越沖地震調査は、所属研究所の自主調査であり、学会調査団のメンバーとして登録されたものではなかった。

議題2. 平成19年度の活動について

(1) 委員会の開催

- ・2回目は12月頃に関き、3回目は3月頃に予定したい。
- ・外部講師の推薦をお願いしたい。
- ・謝金は2万程度（予算は5万程度）。

(2) 平成19年度日本地震工学会年会への参加

- ・議題3で議論する。

(3) 委員会報告書作成

- ・議題7で議論する。

(4) その他

- ・ソロモン調査を実施したとかを報告する。
- ・構造の破壊過程に関する検討を行う必要あり。

議題3. 平成19年度日本地震工学会年会への参加について

- ・オーガナイズドセッションへの参加を考える。
- ・テーマ案「津波の破壊力」とか「津波と構造物の相互作用」とかそういうテーマでよいのではないか。
- ・長くて90分程度のセッション、各委員で発表が可能ではないか。
- ・運上委員は14日午前、15日であれば対応可能。
- ・欠席委員の意見を聞いて、「津波による力と構造物」という内容で参加する方向。
- ・20日までにメールで相談。

議題4. 平成20年度以降の活動について

- ・委員会の開始は17年度からであるが、17年度ときは川島先生。川島先生からは続けてどうかといわれていた。小長井先生に代わって、継続するか、しないかの議論はしていない。研究統括委員会がどういう考えかはわからないが、こちら側が希望すれば継続可能ではないかと思っている。
- ・今期の報告書のメインは「津波の力」ということになるが、もう一期するとすれば、委員会での成果をどうするかをイメージしないとイケない。
- ・被害を減らす段階までいっていない。津波力による破壊過程がまだ解明されていない。今期はそれがわかってきた状態。それらに対する具体的な対策に力点を移すということでもよいと思っている。
- ・被害の推定。リモートセンシングの使い方の委員会も立ち上がっている。その委員会との住み分けを考えないとイケない。
- ・津波を検知するという可能性もある。
- ・建築との絡み。数値シミュレーションでしかないが、津波避難ビルに関してガイドラインをまとめているが、時間の無いなかでの検討であったため、ブラッシュアップしたいというのがある。
- ・地震動の考慮をどうするか。
- ・構造設計のほうでは津波をどうするのかという話があり、設計的なところに結び付けられれば良いと考えている。
- ・洪水の方では1階をガレージにするというものを提案している。具体的な提案ができればよい。
- ・報告書は学会への報告で終わらずに、行政とか、そういうところに積極的に行ってくださいといわれている。
- ・報告書の対象者をどのレベルにするかで報告書の書き方が変わる。
- ・竜巻突風災害に関する調査研究は1年。長期的な展望にたつて、ロードマップを作ることを求められた。行政へのガイドライン。
- ・今回の報告書では研究色が強く、次回はより定量的・具体的な提言をしていく。
- ・20年度以降も続ける方向でいきたい。
- ・委員の提案もお願いしたい。

議題5. 土木学会の津波小委員会との連携について

- ・土木学会、日本地震工学会、地盤工学会等、連携して最近は行っている。
- ・世界全体の津波に対する知見を進歩させたいという意識。日本のプレゼンスを出したいという気持ちがあるが、まとめて日本はどうしているのかということを発表できていない。
- ・土木学会に津波小委員会があつて、とりあえず連携がしやすいという意識があつて、ゆくゆくは、理学系の委員会とかと連携していければよい。
- ・土木学会の小委員会は今年・来年が3期目で、一応これで終わる予定。
- ・たとえば、津波調査体制というワーキングがあつて、いざ調査というときには、同じ意識で動けるようになっていければよい。
- ・意識として統一できるようになっていければよいのではないかと思われる。
- ・お互いの委員会の守備範囲を考えておけばよい。

議題6. 話題提供

有川 「津波による建造物の破壊メカニズムの検討」

- ・衝撃力によってコンクリートが壊れる様子を示す。

運上 「Washout Bridges」

- ・現地調査より流された橋と流されていない橋の定性的な相違、また、小型模型実験による流失現象の再現について紹介された。

議題7. 委員会報告書目次案について

- ・講演会・シンポジウム、年会にオーガナイズドセッションなどを開いたということを書き記述すればよい。
- ・1. ～3. についてはこういったものを入れるという方向。
- ・4.2(3)は、事例程度でよいかもしれない。
- ・4.5(5)は、ダブっているので消す。
- ・4.6(3)(b)は、開口率の影響等。
- ・4.7で提言になってくる。項目名は、シナリオではなく提言のほうが良いかもしれないので、変えてもよい。
- ・建物に関する被災シナリオが書けるのではないか。(奥田委員・石川委員)
- ・次期委員会でのまとめを5.に対する結論に持っていければよいかと思っている。
- ・4.6(3)、(4)、(5)、を4.5のなかに入れるほうが良いのではないか。
- ・4.5(5) 道路建造物への力と入れて、道路・橋梁を入れたほうが良いのではないか。
- ・4.5(6)は、減災対策でもよいのではないか。
- ・

議題8. その他

- ・なし。